

地域食品界の発展と安定に貢献 スローガン「踏襲からの発展」



▲谷口英樹社長

カナカンは、戦後の1946年に地元石川県の食品業者が「地域の食を守る」志のもと集り設立。現在は石川、富山、福井、新潟、長野の5県を中心に6支店、43営業所を展開し、年商は約1千600億円。地域の百貨店、スーパー、ドラッグストア、外食店、惣菜店、給食施設、病院、個人店など、地域密着卸として、地域の食品流通に深く関わり、地域の食品界の発展に大きく貢献。今年

で75周年を迎えている。

今年度スローガンは「踏襲からの発展」を掲げた。75年間受け継いできたものを守りながら、さらに発展するための政策実行を進めている。その一つが部門長の部署を超えた異動。特に特殊性が高いためこれまでほぼ異動がなかった外食部、酒類部も例外なく実施した。谷口英樹社長は「戸惑いもあると思うが、長年積み重ねて磨き上げた経験を活かし、新たな視点での提案、改革、活動をしてくれると期待している」と先を見据える。

投資面では、新潟県長岡市の3温度帯の新物流センターを、22年10月に竣工する。16年に稼働した新潟低温センターはフル稼働に近く、長岡センターは地理的に中越から上越地区に寄り添って取り組み、新たな市場を開拓していく。

環境問題にも以前から積極的に取り組んでおり、デリカセンターのCO2削減や食品ロス削減に向けた取り組み、営業車のハイブリッド車への変更など、各地でさまざまな取り組みを実施しており、現在自社ホームページ掲載に向けて取りまとめている。

国内乾しいたけ取扱量は日本一 多面的視点で商品施策を実践



▲平木慎一社長

兼貞物産は1952年に創業し1954年にしいたけ専業に事業転換した。日本各地の市場に仕入先を有し家庭用から贈答用、業務用まで多彩な品揃えを持ち、国内乾しいたけ取扱量は日本一を誇る。各販売チャネルにおいて乾しいたけが消費者の健康面に貢献できる食材である点に着目。大きさや形、品質に至るまで良質でおいしい乾しいたけの追求を続け、昨今の消費者の細かなニーズに対応

した商品開発を実践してきた。また日本のみならず、中国へのルート開発に着手し、自社工場の建設や指定契約栽培を行っている。さらにJFS-B規格に準じた食品安全マニュアルを確立し、品質の安全性や安定供給に対応できるよう、日本国内にネットワーク網を着実に拡大している。商品開発ではしいたけの既成概念を払拭し手軽に食べられる食品としての認知を高めるべく、様々なメニュー提案を行い乾しいたけの消費拡大に重きを置いている。

近年は機能性表示食品に力を注いでおり、しいたけに含まれるアミノ酸の一種GABAを富化させる技術を福岡県工業技術センター生物食品研究所と共同で開発し、血圧を下げる効果が見込める「すぐもどる椎茸プラス」を、しいたけとして日本初の機能性表示食品を受理し9月から上市している。今後もしいたけの機能性に関する普及啓発や消費拡大による生産者支援、さらには和食文化の良さを再認識する機会につながるよう商品の拡販に尽力していく。